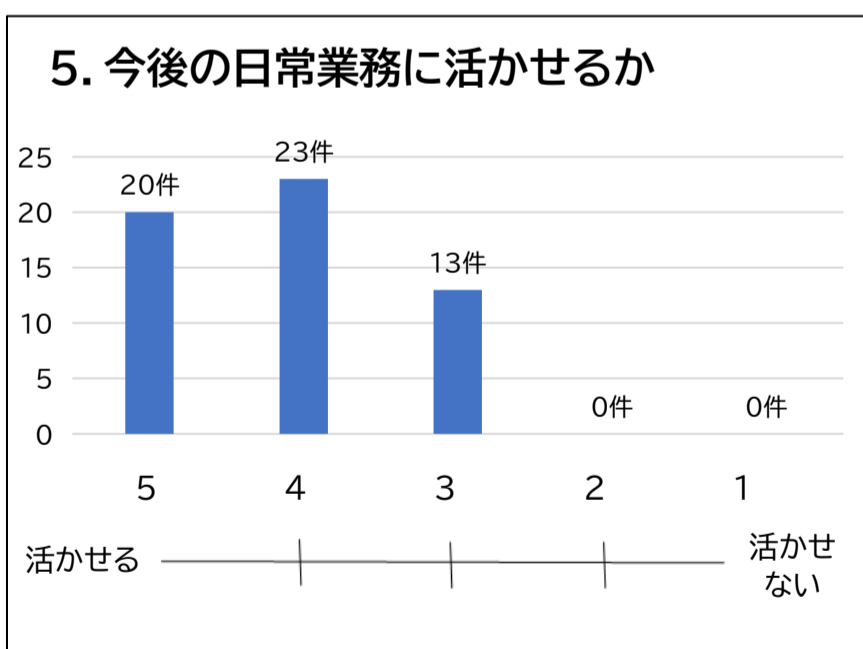
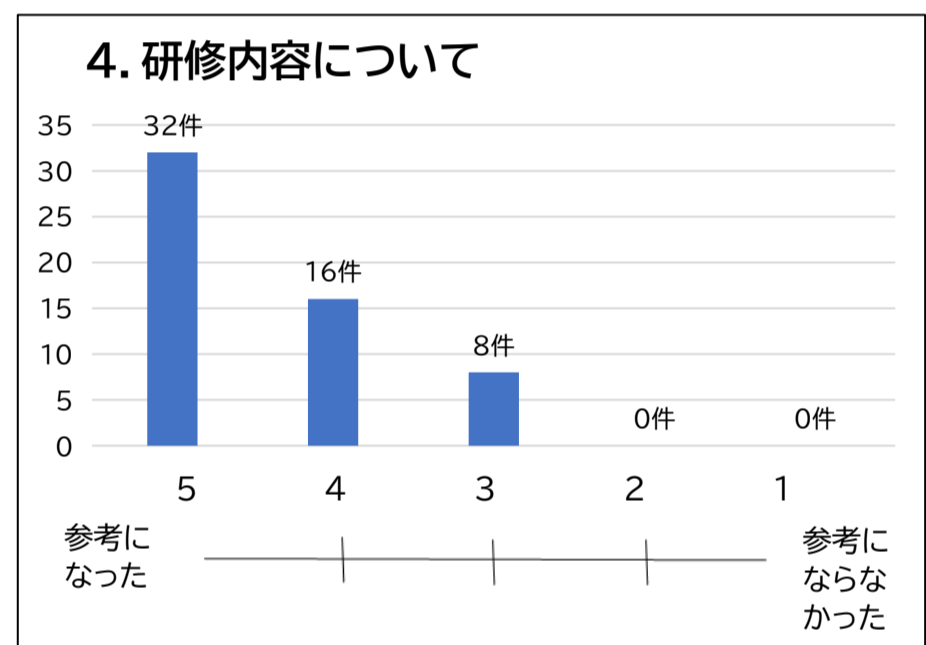
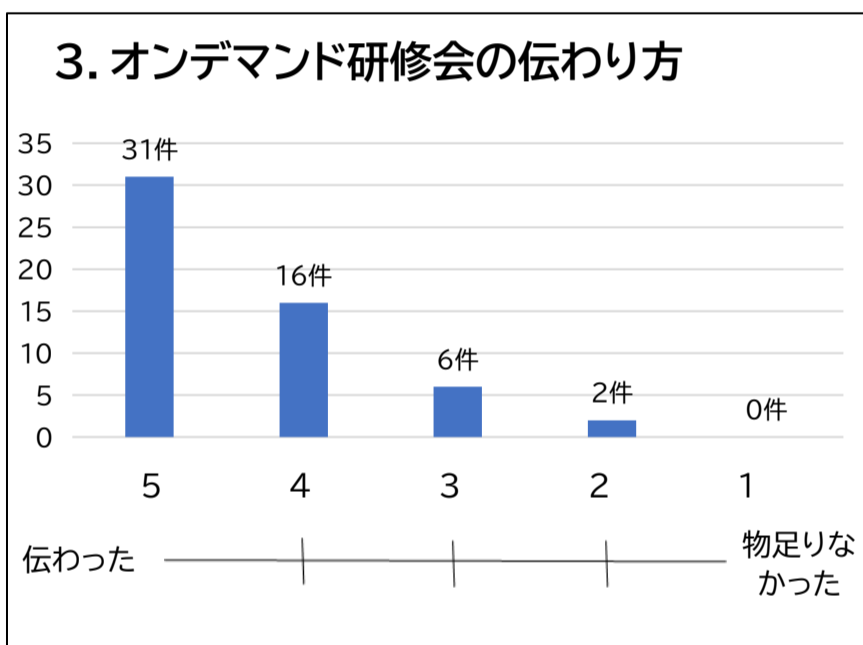
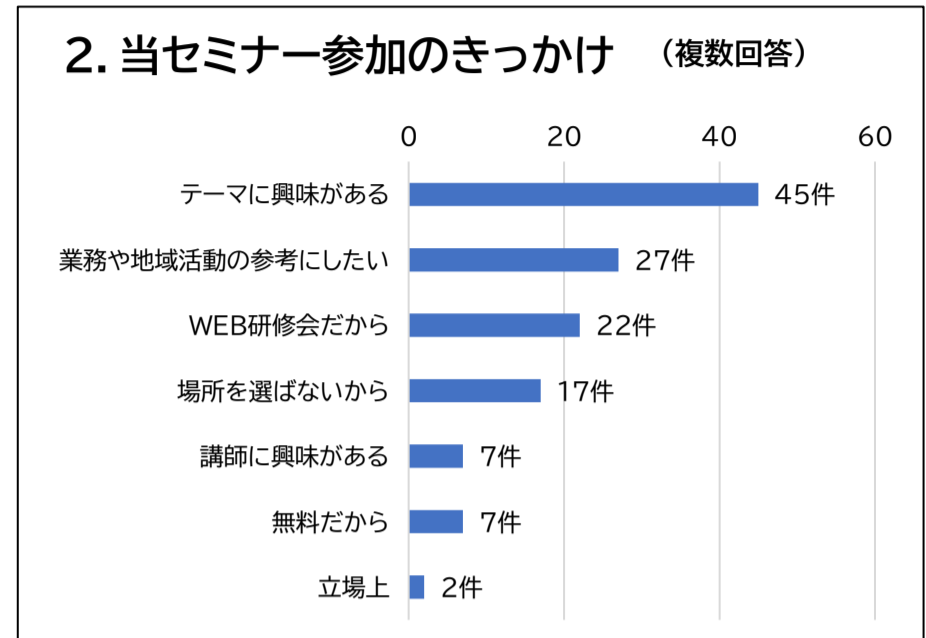
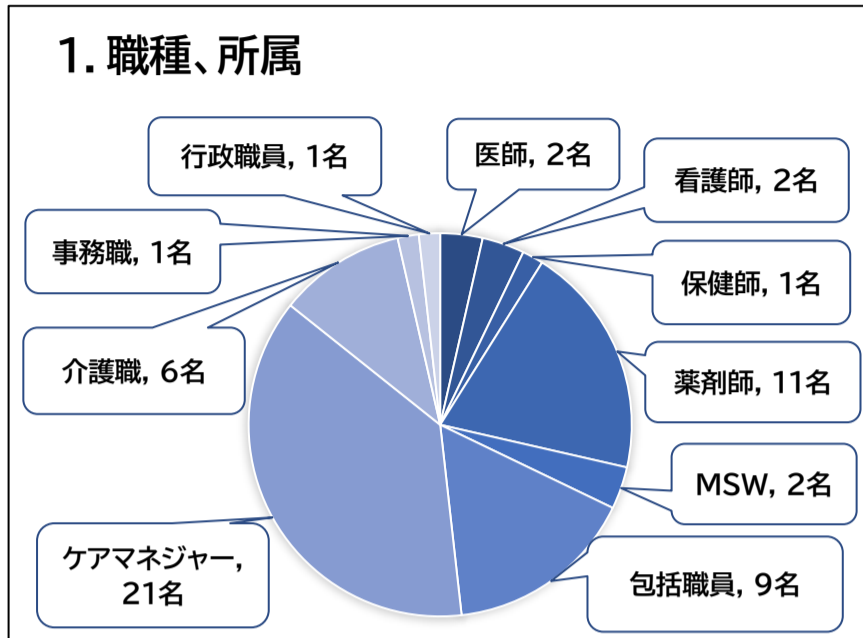


第23回多職種連携 医療・福祉セミナー（収録：R4.11.10 配信：R4.11.16～22日）

「警察署の方から伺う～認知症高齢者の保護や搜索の現状とそこから見えた課題～」

再生回数：329回（回線数：172件）

アンケート回答者56名



6. 参考になった内容や感想（アンケートより一部掲載）

- ・ 認知症には医療関係者だけではなく警察関係の方も深く関わってくださっていること、初めてわかりました
- ・ 認知症の患者さんのご家族の方にPOLICEメールふくしまの事をお伝えして、登録して貰う様に勧めたいと思います。
- ・ さすが警察と思ったのが、目と手の動きを見れば、攻撃を受けるかどうか分かるとお話くださったこと。私も日常の業務で、患者さんの目と手の動きをしっかりと見て、相手の気持ちを汲み取るようにしたいと思いました。
- ・ 薬局では認知症の薬を飲みながら1人で来られる高齢者の方もいらっしゃるの、警察署が用意している連絡先やポリスメール、もしわからなくなった時の警察での対処など参考になりました。特に、GPSの使用など具体的な対策は困っている家族からの相談を受けることも多いので対策の一つとしてお伝えします。
- ・ 深夜までご家族やケアマネージャーの方への連絡や対応をされているということに驚きました。
- ・ 警察署の方々が、状況に応じて行政や支援機関につないでくださっているのは、ありがたいことだと感じましたし、保護を要する方の緊急的な施設があるかどうかについては、私も知りたいところでした。
- ・ 認知症高齢者についての情報提供先や保護された後の対応について などわかりやすい説明でした。
- ・ 認知症の高齢者の様々な事案に接し対応されていることに感激しました。また、生活安全課の取り組みを知り、認知症の方を理解し地域で見守る大きな支えとなっているんだと感謝いたしました。
- ・ 認知症高齢者に対する窓口が生活安全課であることがわかり、今後はそちらに連絡をいれたいと思いました。
- ・ 酔って、亡くなった母親のお墓に行き、酔いが覚め自分で驚いたという方がおりました。認知症になっても自分の大切な人に会いたと思うと無意識に行ってしまうこともあるでしょう。お墓を捜索するという件でその事を思い出し、参考になりました。かつて担当していた方が二人捜索のお手伝いをして頂きました。幸いお二人とも無事に発見されました。日頃のご尽力に感謝致しております。
- ・ 行方不明者が行く場所が昔の職場とかお墓とか生活歴が手がかりになると知り、アセスメントの際の情報収集をしっかりと行う事で、捜索の手掛かりになると感じた。今後に活かしたい。
- ・ 認知症の方への対応など、福祉の業者だけでなく、警察の部署でも、いろいろと考慮したり、接し方なども苦慮されていることを知った。多職種連携の中に、今までは入るイメージがなかったが、同じくその人のために対応できる一員としてお互いに、繋がっていければよいと感じた。
- ・ 認知症を患っている利用者様の対応として、自分に出来ること(QRコードの申請等)や生活安全課との情報共有することなど、少しでも先を見通して助言できるように、情報を得ることが出来ました。
- ・ 他の業種から見た高齢者の実態等に触れることが出来た。捜索の現状や高齢者の犯罪についての話はとても興味深い内容でした。ありがとうございました。
- ・ 認知症と思われる人を保護した時の本人の状況観察項目について勉強になった。歩行能力、言語、方言、態度、着衣の状況、表情、脱糞、失禁、外傷、酒臭、顔色、意識、瞳孔、痛覚反応、呼吸、脈、体温、精神状態などに注視して対応を心掛ける。
- ・ 法律的なことや警察との係わりが、きちんと教えていただき良かった。実際に自宅が分からなくなった高齢者が我が家を訪れた事があり、町内会長や警察につなげ家族に迎えに来てもらった。それまで我が家で待っててもらったことがあるが、町内会長と一緒に待ってくれ心強かったことがある。身近に起こる問題を市民みんなで考えるようになれば良いと思う。
- ・ 警察の方の高齢者対応がとても多い事に驚きました。また、各機関との連携によって解決している事がわかりました。さらに、情報提供が役立っている事がわかりました。